

第5回福祉用具専門相談員研究大会 開催報告書

第5回福祉用具専門相談員研究大会実行委員会

第5回福祉用具専門相談員研究大会概要

- 【開催日】 令和6年6月19日（水）
- 【大会テーマ】 未来を支える福祉用具サービスの可能性
～ ご利用者が自分らしく生きていくための福祉用具専門相談員の使命と役割 ～
- 【会場】 千里ライフサイエンスセンター（大阪府豊中市新千里東町1-4-2）
※オンライン併用
- 【主催】 第5回福祉用具専門相談員研究大会実行委員会
- 【共催】 一般社団法人全国福祉用具専門相談員協会
一般社団法人日本福祉用具供給協会
- 【大会長】 記虎 孝年（関西シルバーサービス協会 理事長）
- 【副大会長】 小野木 孝二（一般社団法人日本福祉用具供給協会 理事長）
- 【大会概要】 特別講演1題・口述発表48題
- 【参加者数】 1,318名（現地参加406名、オンライン参加912名）
- 【後援】 厚生労働省、大阪府福祉部
（公社）大阪介護支援専門員協会、（公社）大阪介護福祉士会、（公社）大阪府看護協会、
（社福）大阪府社会福祉協議会、（一財）大阪府地域福祉推進財団、（一社）回復期リハビリテーション病棟協会、（公社）関西シルバーサービス協会、（一社）こうしゅくゼロ推進協議会、国際医療福祉大学大学院、姿勢活動ケア研究会、（一財）JASPEC、（一社）シルバーサービス振興会、（公社）全国国民健康保険診療施設協議会、（一社）全国デイ・ケア協会、（一社）全国福祉用具人材育成協会、全国福祉用具相談・研修機関協議会、（公社）全国老人福祉施設協議会、（公社）全国老人保健施設協会、（公財）テクノエイド協会、（特非）東京都介護支援専門員研究協議会、（一社）ナチュラルハートフルケアネットワーク、（公社）日本医師会、（一社）日本介護支援専門員協会、（公社）日本介護福祉士会、（一社）日本義肢協会、（公社）日本義肢装具士協会、（一社）日本車椅子シーティング協会、（一財）日本車椅子シーティング財団、（一社）日本ケアマネジメント学会、（一社）日本言語聴覚士協会、（一社）日本在宅介護協会、（一社）日本作業療法士協会、（公社）日本社会福祉士会、（一社）日本褥瘡学会、（一社）日本生活支援工学会、（一社）日本ノーリフト協会、（一社）日本福祉用具・生活支援用具協会、（公財）日本訪問看護財団、（公社）日本理学療法士協会、（公社）日本リハビリテーション医学会、（特非）日本リハビリテーション看護学会、（一社）日本リハビリテーション工学協会、（一社）日本リハビリテーション病院・施設協会、福祉用具プランナー研究ネットワーク※50音順

第5回福祉用具専門相談員研究大会 開催報告

大会テーマ：未来を支える福祉用具サービスの可能性

～ ご利用者が自分らしく生きていくための福祉用具専門相談員の使命と役割 ～

令和6年6月19日（水）、第5回福祉用具専門相談員研究大会を開催いたしました。

節目となる第5回大会は、初めて東京を離れ開催地を大阪に移すとともに、これまでと同様に遠方からも参加しやすいよう現地とオンラインのハイブリッドによる開催方式といたしました。その結果、全体としては1,318名、そのうち現地会場には過去最高となる406名の方々にご参加をいただき、盛会のうちに終えることができました。

開会にあたり、記虎大会長からは「団塊世代が後期高齢者となる2025年が目前に迫っており、2035年には85歳以上の高齢者が1千万人を超えようとしている社会環境において、医療介護連携のなかで福祉用具専門相談員が果たすべき役割は更に重要性を増しており、未来においてもご利用者が自分らしく生きていくことを支えるべく、福祉用具専門相談員が互いに研鑽しあうこと、そして福祉用具サービスを発展させていくことが大切」と大会テーマに基づいた挨拶がありました。

そして、来賓を代表して厚生労働省高齢者支援課福祉用具・住宅改修指導官の内田正剛様と、大阪府福祉部高齢介護室介護支援課長の木本和伸様よりご祝辞を賜りました。

続く特別講演では、兵庫県立大学大学院社会科学研究所教授の筒井孝子様より、「福祉用具の利用支援、評価システムの構築 – 介護場面の画像認識及び暗黙知の言語化及び定量化による評価の今 –」をテーマに、介護事故のデータベース化とAI分析による取り組み、画像認識技術の活用による福祉用具利用の安全確保などについてご講演頂きました。

午後からは、全国から参加した福祉用具専門相談員によって、これまでで最も多い48演題の口述発表が3つの会場に分かれてそれぞれ実施されました。

第一会場では村山尚紀座長による口述1「地域・多職種連携・事業所の取組」、長倉寿子座長による口述4「科学的根拠に基づく未来に向けた福祉用具の取組」の発表が行われました。

第二会場では、竹崎修一座長による口述2「福祉用具安全利用に向けた取組」、西山輝之座長による口述5「効果的な福祉用具の利用促進・福祉用具メーカーとの連携・協働」の発表が行われました。

第三会場では、三浦徹座長による口述3「経験3年未満相談員の福祉用具導入事例」、浜垣英司座長による口述6「地域・多職種連携・事業所の取組」の発表が行われました。

全ての演題発表が終了した後、第一会場においてシンポジウムが開催され、6名の座長がシンポジストを、コーディネーターを小野木孝二副大会長が務めました。シンポジウムでは各口述発表の総括に始まり、大会テーマを通した福祉用具専門相談員に対する提言や、次回大会に向けた問題提起やエールをいただきました。

最後に閉会式では、第6回大会の大会長を務める小野木副大会長が、第5回大会が無事終了したことに対する御礼と、第6回大会の予告及び抱負を述べて第5回大会は幕を閉じました。

第5回福祉用具専門相談員研究大会プログラム

【開会式】

10:00～10:30

(第一会場)



開会挨拶 記虎孝年大会長



来賓挨拶 厚生労働省老健局高齢者支援課 内田 正剛 様



来賓挨拶 大阪府福祉部 高齢介護室 介護支援課 木本 和伸 様



第5回福祉用具専門相談員研究大会プログラム

【特別講演】

10:30～11:30

(第一会場)

講師 兵庫県立大学大学院 社会科学部 教授 筒井 孝子 氏

演題 福祉用具の利用支援、評価システムの構築

一介護場面の画像認識及び暗黙知の言語化及び定量化による評価の今ー

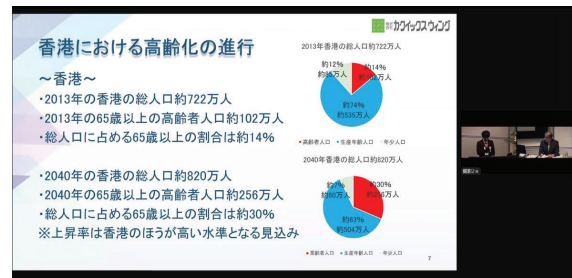
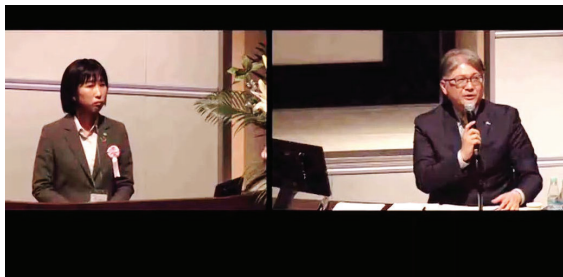


【口述発表1】

12:50～14:15

(第一会場)

座長: 公益社団法人大阪介護支援専門員協会 研修センター部長 村山 尚紀 氏

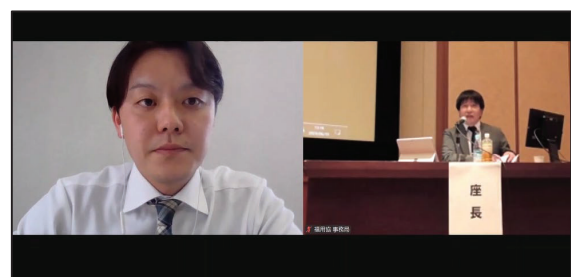
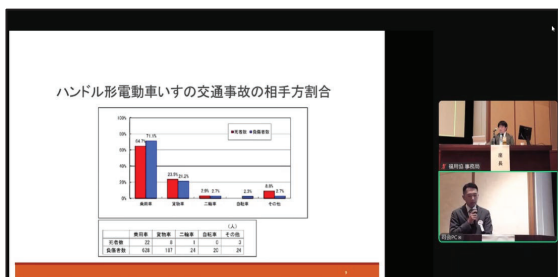


【口述発表2】

12:50～14:15

(第二会場)

座長: 有限会社スマイルケア 右京営業所所長 竹崎 修一 氏



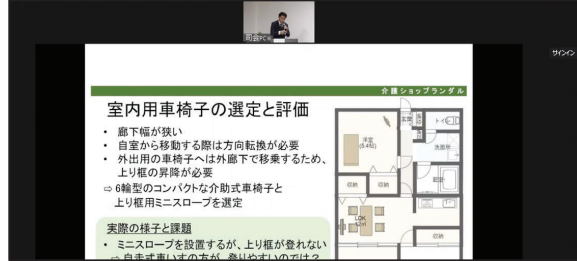
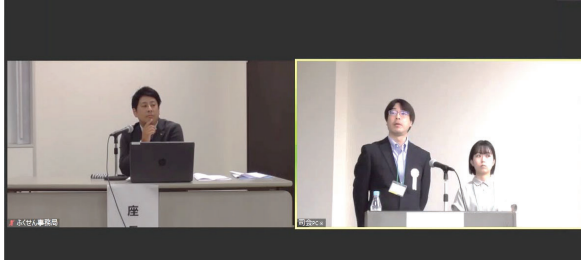
第5回福祉用具専門相談員研究大会プログラム

【口述発表3】

12:50～14:15

(第一会場)

座長: 総合メディカル株式会社 豊中営業所主任 三浦 徹 氏



【口述発表4】

14:35～16:00

(第一会場)

座長: 兵庫県立リハビリテーション病院 教育・連携担当部長 長倉 寿子 氏

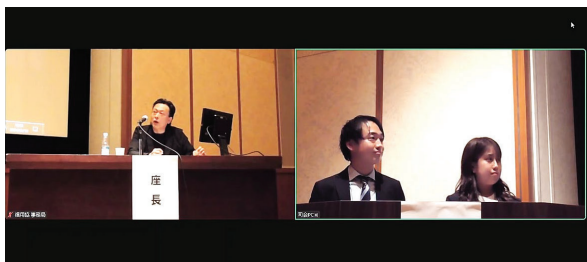


【口述発表5】

14:35～16:00

(第二会場)

座長: 一般財団法人JASPEC 事業部部长 西山 輝之 氏

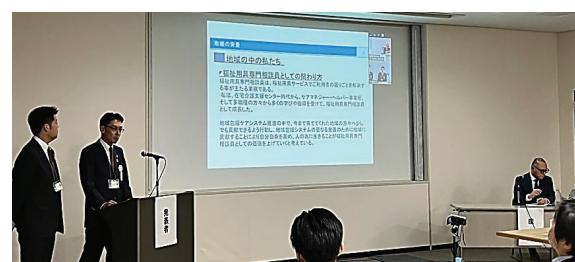
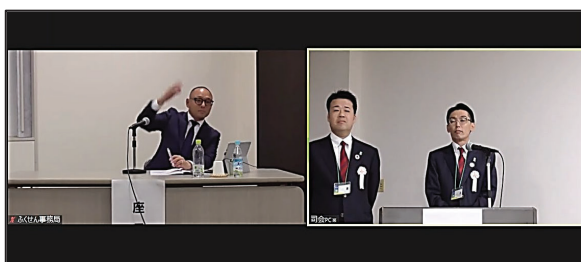


【口述発表6】

14:35～16:00

(第三会場)

座長: 株式会社大黒ヘルスケアサービス 本社部門長 浜垣 英司 氏



第5回福祉用具専門相談員研究大会プログラム

【ランチョンセミナー】

11:40～12:20

(第二・第三会場)

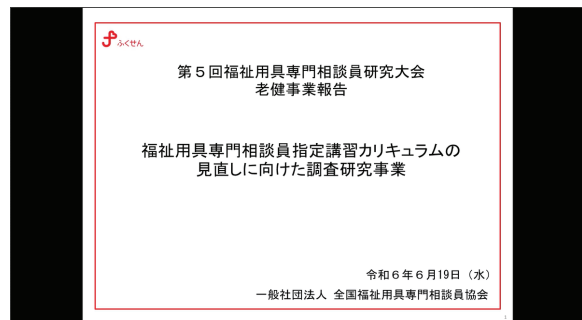
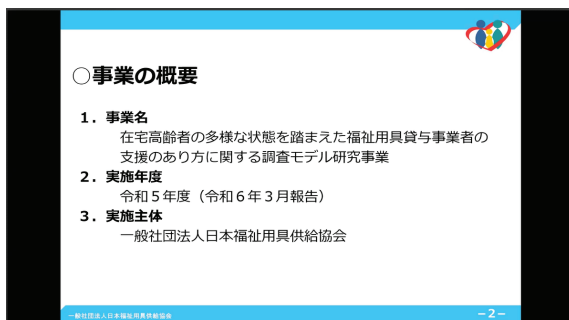
協賛：シーホネンス株式会社
パラマウントヘルスケア総合研究所



【事業報告】

アーカイブ配信

報告者：一般社団法人日本福祉用具供給協会
報告者：一般社団法人全国福祉用具専門相談員協会



【メーカー展示協賛】

10:00～18:00

(ロビー)



第5回福祉用具専門相談員研究大会プログラム

【シンポジウム】

16:20～17:30

(第一会場)

コーディネーター:小野木孝二副大会長

シンポジスト :村山座長、竹崎座長、三浦座長、長倉座長、西山座長、浜垣座長



【閉会式】

17:30～17:40

(第一会場)

閉会挨拶:小野木孝二副大会長



第5回福祉用具専門相談員研究大会 発表者・演題一覧

口述発表1【地域・多職種連携・事業所の取組】

座長：村山 尚紀 氏（公益社団法人大阪介護支援専門員協会 研修センター部長）

No.	発表者	所属	演題（副題）
1	山本 麻未	株式会社ライフ・テクノサービス	災害時における福祉用具の必要性 (名張市社会福祉協議会による通所介護事業所の垂直避難訓練を通して)
2	今井 儀	株式会社ジェー・シー・アイ	福祉用具×SDGs (福祉用具をハブに、地域・行政・事業所 三方良しを目指して)
3	勝田 由美子	一般社団法人ワイズ住環境研究所	福祉用具専門相談員に対する福祉住環境整備研修におけるスーパービジョンの試み
4	岩本 記一	アール医療専門職大学	介護保険利用者に対する福祉用具貸与サービスの導入に関する現状と課題 ー介護支援専門員を対象としたアンケート調査ー
5	上村 昌久	川村義肢株式会社	車椅子着座姿勢における不良座位姿勢の現状と課題
6	草木 沙織	株式会社ウィズ	脳梗塞の後遺症と向き合いながら、一人暮らし新生活に向けたチームアプローチ
7	中馬 季樹	株式会社カクイックスウィング	日本と香港の高齢社会事情について
8	太田 樹生	株式会社トーカイ	40代左半身麻痺利用者に対する車いす移動、歩行支援に向けた取り組み (課題はリハビリテーション職との連携で解決)

口述発表2【福祉用具安全利用に向けた取組】

座長：竹崎 修一 氏（有限会社スマイルケア 右京営業所所長）

No.	発表者	所属	演題（副題）
1	熊野 裕也	株式会社ひまわり	認知症利用者の歩行器の安全な利用継続における取組 (ADLの維持でご夫婦での生活が継続できるように)
2	広田 龍磨	株式会社石坪	ハンドル形電動車いす利用に伴う潜在リスクの再確認と開示・周知
3	栗田 彬斗	株式会社ヤマシタ	地域高齢者の介護予防促進事業として地域包括支援センター8箇所にて予防講座を開催 (AI歩行分析から転倒予防と福祉用具の利用)
4	石田 恭佑	川村義肢株式会社	義肢装具・福祉用具のトータルアプローチ
5	菅野 真央	株式会社同仁社	歩行車をより安全に利用するために
6	加藤 恭次郎	株式会社大黒ヘルスケアサービス	レンタル手すり導入 (高齢者A氏の最大13本の手すり事例)
7	則定 学	株式会社ウィズ	在宅利用者の電動車いす利用における現状と課題
8	杉本 考志	株式会社ヤマシタ	徘徊感知機器を利用する事による認知症高齢者の自立支援

第5回福祉用具専門相談員研究大会 発表者・演題一覧

口述発表3【経験3年未満相談員の福祉用具導入事例】

座長：三浦 徹 氏（総合メディカル株式会社 豊中営業所主任）

No.	発表者	所属	演題（副題）
1	清水 隆	たかつきFJCつながり	福祉用具などを活用した幸齢住宅への改修計画について (安全・安心+心地良い 住空間をつくる)
2	山本 隆博	株式会社ヤサカ	福祉用具導入による住環境整備の現状と課題
3	大塚 美帆 大沼 考生	株式会社ヤマシタ	外スロープを用いた外出支援 (レンタル品設置後、介護保険での住宅改修と自治体支援事業による費用を抑えた工事の提案)
4	荒木 実璃	フランスベッド株式会社	がん末期患者への短期間における福祉用具導入での住環境整備
5	日笠 亜美	株式会社ウィズ	リハビリから体や心の緩和へ繋げる福祉用具の事例
6	岡本 直樹	株式会社ランダルコーポレーション	信頼される福祉用具専門相談員への道
7	竹原 優里奈	株式会社かくの木	利用者の望む在宅生活を支えるうえで大切なこと (生きていく上で重要な食事の環境整備の大切さ、多職種連携の必要性)
8	鈴木 涼介	エイジライフ株式会社	利用者の思いと自立した生活を支える福祉用具 (生きるから活きるへ、点から線へ、)

口述発表4【科学的根拠に基づく未来に向けた福祉用具の取組】

座長：長倉 寿子 氏（社会福祉法人兵庫県社会福祉事業団兵庫県立リハビリテーション中央病院 教育・連携担当部長）

No.	発表者	所属	演題（副題）
1	鎌谷 勝輝	株式会社トーカイ	要支援認定高齢者への電動車いす導入による自立支援・QOL向上・ 重度化抑制に繋がった取り組み
2	玉井 春貴	フランスベッド株式会社	転倒予防に向けた評価スケールの活用と住環境整備の提案 進行性核上性麻痺と向き合う家族の支援
3	岡田 佑哉	株式会社トーカイ	特殊寝台導入と寝室変更が睡眠に与える影響の考察
4	佐藤 碧美 水越 良行	株式会社ヤマシタ	「滑らせる介護」の普及活動
5	大田 健介 福山 千秋	株式会社カクイックスウィング	理学療法士と福祉用具専門相談員の連携による移動支援のモニタ リングの実践 (歩行能力を数値化したことによる歩行器の適合性の見える化)
6	小島 みさお	国際医療福祉大学大学院・ 東京都健康長寿医療センター研究所	福祉用具専門相談員における介護ロボットの積極的関与意向
7	丸岡 達矢	株式会社ポート・リハビリサービス	高齢者施設における自動計測機能付きポータブルトイレ活用の検証
8	角南 拓磨	日本基準寝具株式会社	過疎地域で挑む、「人材」を確保し、「介護」を維持するための取組 みについて

第5回福祉用具専門相談員研究大会 発表者・演題一覧

口述発表5【効果的な福祉用具の利用促進・福祉用具メーカーとの連携・協働】

座長：西山 輝之 氏（一般財団法人JASPEC 事業部部長）

No.	発表者	所属	演題（副題）
1	相澤 一也	株式会社かんきょう	「可能な限り最後まで一緒に過ごしたい」、家族の願いに応えた福祉用具の導入
2	大橋 強士	株式会社ウィードメディカル	認知症を患われている方が在宅生活を継続するための福祉用具導入（見守り機能付き徘徊感知機器を利用した在宅支援）
3	本田 来輝 木村 実央	株式会社ヤマシタ	ご本人のやりたいことを支える福祉用具と、そのためのトライ＆エラー
4	鈴木 健介 大河内 涼太	株式会社カラーズ	在宅介護の現場の声から生まれた介助型車椅子 COLORS®
5	巖 英二	パラマウントヘルスケア総合研究所	要介護高齢者に対する特殊寝台の有用性の調査研究（アンケートと操作履歴・離床情報による特殊寝台の利用実態の調査研究）
6	飛澤 良亮	マッスル株式会社	テクノロジーを用いた移乗介助における介護者・要介護者の負担軽減に関する一考察（使用実態とその効果）
7	田中 悠介	株式会社カクイックスウィング	介護ロボット導入から定着において高齢者施設が福祉用具専門相談員に求めること
8	竹本 良平	株式会社トップコーポレーション	GPS付認知症徘徊感知機器の実状

口述発表6【地域・多職種連携・事業所の取組】

座長：浜垣 英司 氏（株式会社大黒ヘルスケアサービス 本社部門長）

No.	発表者	所属	演題（副題）
1	光本 健太	株式会社ヤマシタ	福祉用具と多職種連携による状態変化に合わせた環境整備
2	櫻田 諭	株式会社サンメディカル	左大腿部切断後、在宅復帰に向けたチームアプローチ（利用者の望む自立維持への支援）
3	出町 雄介 北嶋 慎也	エイジライフ株式会社	地域包括ケアシステムの中での地域連携と福祉用具専門相談員の在り方
4	樋口 琉三	川村義肢株式会社	介護保険対象者への補装具としての電動車椅子製作事例
5	佐藤 翔太	株式会社かんきょう	福祉用具サービス導入率向上と社員育成への取り組み
6	鈴木 佑奈	安心ライフ株式会社	退院に伴う居住環境整備の事例
7	西澤 太郎 角山 実可子	有限会社スマイルケア	防災福祉まちづくりにおける福祉用具専門相談員が担う役割について（京都市菊浜学区での取り組みより）
8	信澤 知輝	フランスベッド株式会社	今後増加が見込まれる、認知症状のある地域住民を守るための徘徊対策模擬訓練と福祉用具の活用

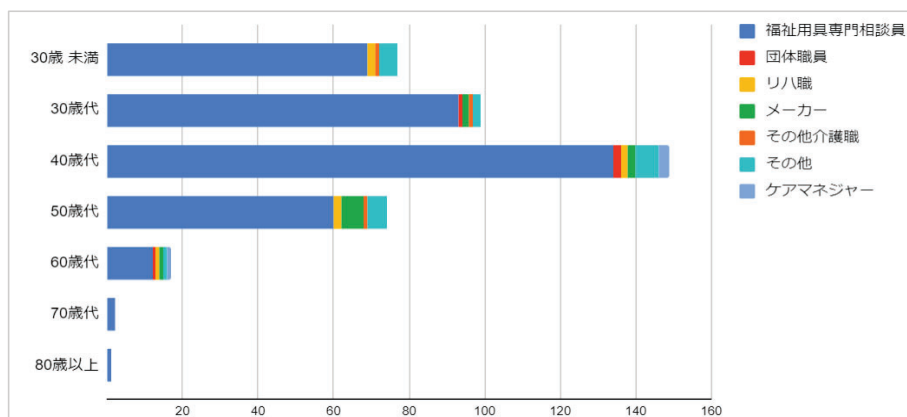
第5回福祉用具専門相談員研究大会 参加者アンケート集計結果

アンケート概要

- 実施時期:2024年6月19日(水)~30日(日)
- 調査方法:eメールによるwebアンケート様式の配布・回収
- 回収状況:発送数1,190人/回収数419人/回収率35.2%

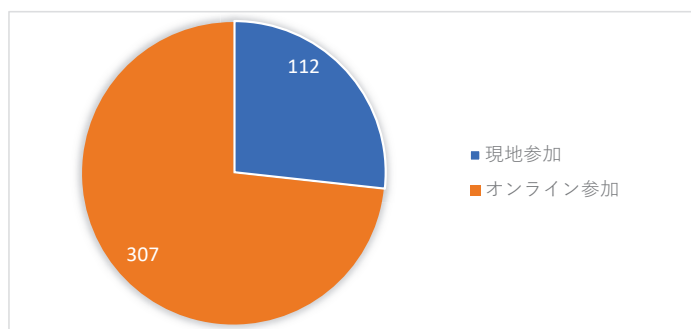
1. 回答者の基本属性について

	30歳未満	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳以上	総計	構成比
福祉用具専門相談員	69	93	134	60	12	2	1	371	88.6%
団体職員		1	2		1			4	1.0%
リハ職	2		2	2	1			7	1.6%
メーカー		2	2	6	1			11	2.6%
その他介護職	1	1		1				3	0.7%
その他	5	2	6	5	1			19	4.5%
ケアマネジャー			3		1			4	1.0%
総計	77	99	149	74	17	2	1	419	100.0%
構成比	18.4%	23.6%	35.6%	17.7%	4.0%	0.5%	0.2%	100.0%	



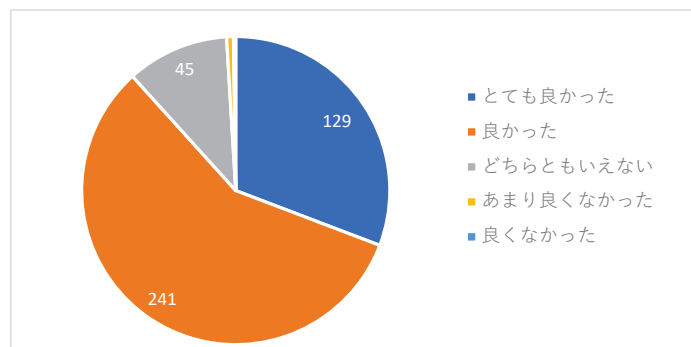
2. 参加方法について

	人数	構成比
現地参加	112	26.7%
オンライン参加	307	71.3%
総計	419	100.0%



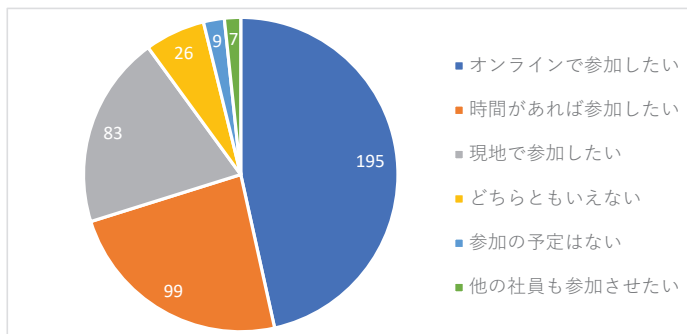
3. 全体の感想について

	人数	構成比
とても良かった	129	30.8%
良かった	241	57.5%
どちらともいえない	45	10.7%
あまり良くなかった	3	0.7%
良くなかった	1	0.3%
総計	419	100.0%



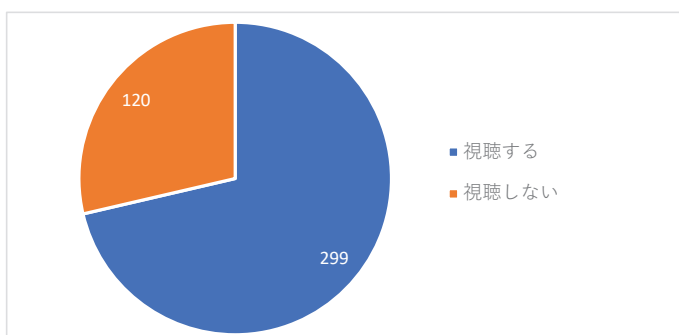
4. 次回の参加について

	人数	構成比
オンラインで参加したい	195	46.5%
時間があれば参加したい	99	23.6%
現地で参加したい	83	19.8%
どちらともいえない	26	6.2%
参加の予定はない	9	2.2%
他の社員も参加させたい	7	1.7%
総計	419	100.0%



5. アーカイブ配信について

	人数	構成比
視聴する	299	71.4%
視聴しない	120	28.6%
総計	419	100.0%



6. その他ご意見など(自由記述)

きめ細やかな対応とスムーズな運営がされていて良かった	11
今後のサービスの質向上の参考にしたい	8
オンラインで参加できてよかった	5
スケジュールがタイトに感じる	5
アーカイブ視聴できるのが良い	3
今後も東京以外の場所で開催してほしい	3
今後も継続してほしい	2
事例発表の時間をもう少し長くしてほしい、中身の濃い内容の発表が聴きたい	2
事例発表ではなく科学的な研究発表が増えると良い	2
オンライン配信で画面が暗く見えづらい箇所があった	1
オンライン配信で音が聞こえづらい箇所があった	1
発表時間を知らせるチャイムの音がオンライン上とても大きく気になった	1
発表に対して優秀賞、大賞などがあると、参加意欲がより増えると感じた	1
シンポジウムは大会の主テーマに関わる討論会などを企画してほしい	1
その他	11
総計	57

動画アーカイブ視聴画面(視聴期間:2024/6/25~9/30)



一般社団法人
全国福祉用具専門相談員協会

ふくせんとは

よくある質問

学習ツールのご案内

研修会・イベント情報

介護保険と福祉用具
(専用ページはこちら)

トップページ > 動画配信



祝辞

伊佐 進一 (いさ しんいち) 衆議院議員
伊藤 孝江 (いとう たかえ) 参議院議員
竹内 譲 (たけうち ゆずる) 衆議院議員
田村 憲久 (たむら のりひさ) 衆議院議員
古屋 範子 (ふるや のりこ) 衆議院議員
(五十音順)

動画アーカイブ

第1会場

開会式



開会式	00:00:04~
特別講演	00:19:28~

口述発表1「地域・多職種連携・事業所の取組」

座長：村山 尚紀氏（公益社団法人大阪介護支援専門員協会 研修センター部長）



山本 麻未	00:02:55～
今井 儀	00:13:43～
勝田 由美	00:23:59～
岩本 記一	00:34:52～
上村 昌久	00:45:59～
草木 沙織	00:56:38～
中馬 季樹	01:07:38～
太田 樹生	01:16:48～

口述発表4「科学的根拠に基づく未来に向けた福祉用具の取組」

座長：長倉 寿子氏（社会福祉法人兵庫県社会福祉事業団兵庫県立リハビリテーション中央病院部長(教育・連携担当)）



鎌谷 勝輝	00:01:40～
玉井 春貴	00:11:18～
岡田 佑哉	00:21:37～
水越 良行・佐藤 碧美	00:30:38～
大田 健介・福山 千秋	00:41:12～
小島 みさお	00:51:12～
丸岡 達矢	01:02:12～
角南 拓磨	01:14:12～

シンポジウム・閉会式



シンポジウム	00:01:36～
閉会式	01:00:02～

第2会場

口述発表2「福祉用具安全利用に向けた取組」

座長：竹崎 修一氏（有限会社スマイルケア 右京営業所所長）



熊野 裕也	00:01:32～
広田 龍磨	00:11:59～
栗田 彬斗	00:22:20～
石田 恭佑	00:32:23～
菅野 真央	00:41:39～
加藤 恭汰郎	00:50:28～
則定 学	01:00:32～
杉本 考志	01:11:34～

口述発表5「効果的な福祉用具の利用促進・福祉用具メーカーとの連携・協働」

座長：西山 輝之氏（一般財団法人JASPEC 事業部部長）



相澤 一也	00:01:38～
大橋 強士	00:11:13～
本田 来輝・木村 実央	00:20:44～
鈴木 健介・大河内 涼太	00:31:03～
巖 英二	00:41:38～
飛澤 良亮	00:52:34～
田中 悠介	01:02:40～
竹本 良平	01:14:07～

第3会場

口述発表3「経験3年未満相談員の福祉用具導入事例」

座長：三浦 徹氏（総合メディカル株式会社 豊中営業所主任）



清水 隆	00:01:14～
山本 隆博	00:11:32～
大塚 美帆・大沼 考生	00:21:55～
荒木 実璃	00:32:22～
日笠 亜美	00:41:34～
岡本 直樹	00:52:22～
竹原 優里奈	01:02:05～
鈴木 涼介	01:11:38～

口述発表6「地域・多職種連携・事業所の取組」

座長：浜垣 英司氏（株式会社大黒ヘルスケアサービス 本社部門長）



光本 健太	00:01:52～
櫻田 諭	00:11:51～
出町 雄介・北嶋 慎也	00:21:55～
樋口 琉三	00:32:34～
佐藤 翔太	00:42:43～
鈴木 佑奈	00:52:25～
西澤 太郎・角山 実可子	01:02:51～
信澤 知輝	01:13:03～

老健事業報告

老健事業報告



日本福祉用具供給協会	00:00:00～
全国福祉用具専門相談員協会	00:14:02～

「第5回福祉用具専門相談員研究大会」大阪にて開催

／大会事務局

「第5回福祉用具専門相談員研究大会」が2024年6月19日に大阪にて開催する。福祉用具を提供するにあたり用具の使用方の説明等を行う専門職である福祉用具専門相談員が更なる専門性向上を目指す取り組みの一環として開催される。

【日時】2024年6月19日（水）10:00～17:30

【会場】千里ライフサイエンスセンター（大阪府豊中市新千里東町1-4-2）※オンライン併用

【主催】第5回福祉用具専門相談員研究大会 実行委員会

【共催】一般社団法人全国福祉用具専門相談員協会、一般社団法人日本福祉用具供給協会

問合せ先／事務局 TEL:03-5418-7700 E-mail:info@zfssk.com

福祉介護テクノプラス 2024年2月号

6月19日大阪で開催！ 第5回福祉用具専門相談員研究大会

記虎孝年 大会長
資質磨き、社会的地位と信頼性向上へ



「福祉用具専門相談員研究大会」が、大阪府豊中市新千里東町1-4-2の千里ライフサイエンスセンターで開催される。本大会は、福祉用具専門相談員の資質向上と社会的地位の向上を目的として開催される。...

鈴木みどり 実行委員長
過去最多の演題エントリー
熱気あふれる大会に



「第5回福祉用具専門相談員研究大会」が、大阪府豊中市新千里東町1-4-2の千里ライフサイエンスセンターで開催される。本大会は、福祉用具専門相談員の資質向上と社会的地位の向上を目的として開催される。...



厚生労働省 福祉用具・住宅改修指導官内田正剛氏
PDCAの実践がサービスの質を高める



厚生労働省の福祉用具・住宅改修指導官である内田正剛氏が、福祉用具専門相談員としての役割と、PDCAサイクルの実践がサービスの質を高めることについて講演する。...

大会概要

日時：2024年6月19日（水）
会場：千里ライフサイエンスセンター（大阪府豊中市新千里東町1-4-2）※オンライン併用
大会テーマ：未来を支える福祉用具サービスの可能性～ご利用者が自分らしく生きていくための福祉用具専門相談員の使命と役割～
大会長：記虎孝年氏（関西シルバーサービス協会理事長）
主催：第5回福祉用具専門相談員研究大会 実行委員会
共催：全国福祉用具専門相談員協会、日本福祉用具供給協会
主なプログラム（予定）：大会長・来賓あいさつ、演題発表、シンポジウム、商社・学生・兵庫県立大学大学院教授による特別講演、ランチョンセミナー、老健事業報告、福祉用具展示、懇親会など
参加申込：4月1日より、ふくせん、日福協のWEBサイトで受付開始



福祉用具専門相談員研究大会開催へ

全国福祉用具専門相談員協会と日本福祉用具供給協会は6月19日、第5回の福祉用具専門相談員研究大会を大阪府豊中市で開催する。節目の5回目は初の地方開催となる。

テーマは「未来を支える福祉用具サービスの可能性」。大会を務める関西シルバーサービス協会の記虎孝年理事長は「多くの専門相談員が交流しながら研鑽する場になりたい」と話す。

「来年の2025年には団塊の世代が後期高齢者になり、35年には85歳以上の高齢者が1千万人を超える。このため介護人

材は非常に不足すると見込まれており、大阪府全体でも約2万5千人不足するといわれている。そうした状況で高齢者や障害者の自立支援を考えたときに、まず事故のない安心・安全・快適な生活を送るために福祉用具の導入が重要だ。

そして、人材不足の中で住環境の改善や介護ロボット、福祉用具を使って生産性を向上させることが、福祉用具専門相談員に期待される役割だと考える。

今年4月からは福祉用具に貸与・販売の選択制が導入された。利用者が説明を行い、医師の意見やサービス担当者会議での協議を踏まえて用具を提案する仕組みで、専門相談員には定期的なモニタリングも義務付けられた。ケアマネもその結果を確認し必要があればケアプランの変更をするなど、これまで以上に協働が求められる。

今後は、疾患を抱える後期高齢の利用者も増える。モニタリングはいっしょに行うのがいいか、福祉用具をレンタルするのか質問のか。医師やリハ職ヘルパーなどと協議しながら科学的根拠をもとに選定することが必要だ。より良い選定や利用につながる可能性があると思う。

こうした考えから今回の研究大会では、口述発表のテーマに、新たに「科学的根拠に基づく未来に向けた福祉用具の取組を追加した。連携・協働を通じて、福祉用具専門相談員による適宜選定の仕組みを構築する」という思いを込めている。

全体の発表演題数は昨年より増えて48演題となった。特別講演は兵庫県立大学大学院の筒井孝子教授を講師にお招きし、高齢者の身体機能や認知機能の変化に配慮した福祉用具を選択・利用することで事故を防ぎ、生産性向上につながる評価システムの構築についてお話しした。

福祉用具専門相談員は、日々一人ひとりの利用者に向き合って支援しているが、全国にも同じ仲間が大勢いる。研究大会はオンライン参加も可能だが、リアルで集まって相談員同士で交流しながらの自己研鑽は励みになり、得られるものも多いはずだ。



記虎大会長

記虎孝年大会長に聞く 福祉用具の可能性を考える 生産性向上や協働テーマに

【第5回福祉用具専門相談員研究大会 概要】
▽2024年6月19日(水) 午前10時～午後5時40分
▽千里ライフサイエンスセンター(大阪府豊中市)
▽大会テーマ:「未来を支える福祉用具サービスの可能性～ご利用者が自分らしく生きていくための福祉用具専門相談員の使命と役割～」
▽特別講演「福祉用具の利用支援、評価システムの構築」
講師:筒井孝子氏(兵庫県立大学大学院教授)
▽ランチョンセミナー
①「介護保険における自立支援の考え方」講師:成瀬文博氏(エブリハ代表取締役)
②「新時代に求められる福祉用具専門相談員のモニタリング」講師:長倉寿子氏(兵庫県立リハビリテーション中央病院教育・連携担当部長)
▽口述発表 ①地域・多職種連携・事業所の取組②福祉用具安全利用に向けた取組③科学的根拠に基づく未来に向けた福祉用具の取組——など
▽シンポジウム 発表演題のまとめと今後の展望

「科学的根拠に基づく未来に向けた福祉用具の取組を追加した。連携・協働を通じて、福祉用具専門相談員による適宜選定の仕組みを構築する」という思いを込めている。

全体の発表演題数は昨年より増えて48演題となった。特別講演は兵庫県立大学大学院の筒井孝子教授を講師にお招きし、高齢者の身体機能や認知機能の変化に配慮した福祉用具を選択・利用することで事故を防ぎ、生産性向上につながる評価システムの構築についてお話しした。

福祉用具専門相談員は、日々一人ひとりの利用者に向き合って支援しているが、全国にも同じ仲間が大勢いる。研究大会はオンライン参加も可能だが、リアルで集まって相談員同士で交流しながらの自己研鑽は励みになり、得られるものも多いはずだ。

今回の研究大会では、口述発表のテーマに、新たに「科学的根拠に基づく未来に向けた福祉用具の取組を追加した。連携・協働を通じて、福祉用具専門相談員による適宜選定の仕組みを構築する」という思いを込めている。

第5回全国福祉用具専門相談員研究大会 6月19日に初の大阪開催

テーマ① 地域・多職種連携・事業所の取組

50代女性の一人暮らし 生活全般を含め見守る



ウイス 栞木紗織さん

「本人は入居して入居後、P.T.職員が定期的に見守り、生活全般を見守る。本人は入居後、P.T.職員が定期的に見守り、生活全般を見守る。本人は入居後、P.T.職員が定期的に見守り、生活全般を見守る。」

記虎孝年大会長 (関西シルバーサービス協会 理事長)



専門性向上につながる 貴重な機会に

「今回の大会は、福祉用具の専門性向上につながる貴重な機会に。参加者同士の交流や、最新の福祉用具の紹介など、多くの学びを得ることができた。」

「今回の大会は、福祉用具の専門性向上につながる貴重な機会に。参加者同士の交流や、最新の福祉用具の紹介など、多くの学びを得ることができた。」

テーマ② 効果的な福祉用具の利用促進・福祉用具メーカーとの連携・協働

「一緒に過ごしたい」 家族の願い叶えたいリフト



かんきょう 相澤一也さん

「一緒に過ごしたい。家族の願いを叶えたい。福祉用具メーカーとの連携・協働が、その実現に大きく貢献している。」

テーマ③ 経験3年未満相談員の福祉用具導入事例

食事姿勢改善し 早食い解消



かくの木 竹原優里奈さん

「食事姿勢を改善することで、早食いが解消された。福祉用具の適切な導入が、生活の質を向上させた。」

「食事姿勢を改善することで、早食いが解消された。福祉用具の適切な導入が、生活の質を向上させた。」

開催概要

日程 2024年6月19日(水)
会場 千里ライフサイエンスセンター5階
 (大阪府豊中市新千里東町1-4-2)
 ※オンライン併用

大会テーマ
 未来を支える福祉用具サービスの可能性
 ～ご利用者が自分らしく生きていくための福祉用具専門相談員の使命と役割～

主催
 第5回福祉用具専門相談員研究大会実行委員会

主なプログラム

- ◆全5テーマでの口述発表・シンポジウム
- ◆特別講演「福祉用具の利用支援・評価システムの構築～介護現場の画像認識及び暗黙知の言語化及び定量化による評価の今～」(筒井孝子・兵庫県立大学大学院教授)
- ◆ランチョンセミナー1「介護保険における自立支援の考え方」(成瀬文博・エプソン株式会社取締役、協賛ニッセイホームズ)
- ◆ランチョンセミナー2「新時代に求められる福祉用具専門相談員のモニタリング」(長倉孝子・兵庫県立リハビリテーション中央病院教育・連携担当部長、協賛ニッセイホームズ)
- ◆企業ブース (IT、ワークス、アクションジャパン、アロン化成、ケープ、シーホネス、タイカ、日進医療器、パナソニックエイジフリー、パラマウントケアサービス、プラッツ、フランスベッド、ベルモビル、マッスル)

参加申込
 申込みフォーム(QRコード)より

科学的根拠に基づく未来に向けた福祉用具の取組

根拠立てた説明で 輪がひろがる

フランスヘッド 玉井春貴さん

「科学的根拠に基づいた説明が、福祉用具の普及に大きく貢献している。ユーザーの理解を深め、安心して利用できるようにすることが大切だ。」

第5回福祉用具専門相談員研究大会（記虎孝年大会長）が19日、大阪府豊中市の千里ライフサイエンスセンターで開催された。今年度のテーマは「未来を支える福祉用具サービスの可能性」。多職種連携や福祉用具の安全利用など6テーマ48演題での口述発表やシンポジウムなどが行われ、現地・オンライン合わせて1300人以上が参加した。

福祉用具は利用者の問診表 現場の知恵のデータベース化を提起 福祉用具専門相談員研究大会

講演する筒井教授



科の筒井孝子教授が登場。これからの福祉用具の役割として、介護サービスを受ける利用者の問診票となることを挙げ、利用者の情報をデータベース化し、現場の知恵を型化することを提起した。具体的には、▽見守

り機器▽車いす▽排泄支援機器などの機器から、利用状況や事故発生状況をまとめ、医療・介護・研究などオープンデータとして横断的に使えるように都道府県が中心となってまとめるべきとした。

部長は、福祉用具の安全性と効果を評価し、利用者の生活の質の向上に貢献するための実践的な知見を提供する発表が多くあったと総括。具体例として、▽電動車いすの導入による外出活動の拡大▽転倒予防スケールを用いた住環境整備▽スライディングシートの普及活動などを挙げた。

シンポジウムでは、小野木孝二副大会長と、口述発表で各テーマの座長を務めた6人が登壇し、口述発表の総括が行われた。「科学的根拠に基づく未来に向けた福祉用具の取組」の座長を務めた兵庫県社会福祉事業団の長倉寿子教育・連携担当

また、福祉用具専門相談員に今後求められる役割として、メンテナンス能力や種類の知識だけでなく、多職種協働をさらに進めるため介護の実務知識も必要と強調した。

シルバー新報 2024年6月28日号

第5回福祉用具専門相談員研究大会 in 大阪

過去最多1317人参加「未来を支える福祉用具サービス」へ高め合う場に

医介連携の中で専門相談員の役割より明確に 記虎孝夫会長



記虎孝夫会長

「当初は、今年度、第5回福祉用具専門相談員研究大会を開催し、過去最多の1317人が参加し、未来を支える福祉用具サービスの明確な役割と専門相談員の役割を明確に...

特別講演 兵衛興立大学大学院 簡井孝子氏 退院前カンファで用具提案を



簡井孝子氏

看察医の協力を得て、退院前カンファで用具提案を行う。退院前カンファとは、退院前に行われる患者さんや家族、介護者、医療者などが参加する会議で、退院後の生活や介護の課題を話し合い、必要な福祉用具を提案する...

次回回は来年6月19日 東京で開催
第6回福祉用具専門相談員研究大会は、25年6月19日に、東京都台東区の浅草橋ヒューリックホールで開催される。

高齡化する香港の福祉用具事情
カンタンの高齢化率の高さを踏まえ、福祉用具の需要が高まっている。香港では、高齢者の増加に伴って、福祉用具の需要が高まっている...

「車いすを自操したい」の実現めざして
高齢者の自立生活を支えるために、車いすの改良や新技術の開発が進められている。車いすを自操したいという高齢者の要望に応えるため、福祉用具メーカーは、車いすの改良や新技術の開発を進めている...

1177事業所の協力で 特殊寝台の有効性調査
パラマウントヘルシケアが、特殊寝台の有効性を調査した。調査の結果、特殊寝台は、高齢者の寝違えや腰痛の予防に効果的であると判明した...

福祉用具サービス導入率向上と社員育成の取り組み
福祉用具サービスの導入率を向上させ、社員の育成に取り組んでいる。福祉用具サービスの導入率を向上させるためには、社員の育成が重要である...

退院前カンファで用具提案を
看察医の協力を得て、退院前カンファで用具提案を行う。退院前カンファとは、退院前に行われる患者さんや家族、介護者、医療者などが参加する会議で、退院後の生活や介護の課題を話し合い、必要な福祉用具を提案する...

高齡化する香港の福祉用具事情
カンタンの高齢化率の高さを踏まえ、福祉用具の需要が高まっている。香港では、高齢者の増加に伴って、福祉用具の需要が高まっている...

「車いすを自操したい」の実現めざして
高齢者の自立生活を支えるために、車いすの改良や新技術の開発が進められている。車いすを自操したいという高齢者の要望に応えるため、福祉用具メーカーは、車いすの改良や新技術の開発を進めている...

1177事業所の協力で 特殊寝台の有効性調査
パラマウントヘルシケアが、特殊寝台の有効性を調査した。調査の結果、特殊寝台は、高齢者の寝違えや腰痛の予防に効果的であると判明した...

福祉用具サービス導入率向上と社員育成の取り組み
福祉用具サービスの導入率を向上させ、社員の育成に取り組んでいる。福祉用具サービスの導入率を向上させるためには、社員の育成が重要である...

特別講演 兵衛興立大学大学院 簡井孝子氏 退院前カンファで用具提案を
看察医の協力を得て、退院前カンファで用具提案を行う。退院前カンファとは、退院前に行われる患者さんや家族、介護者、医療者などが参加する会議で、退院後の生活や介護の課題を話し合い、必要な福祉用具を提案する...

高齡化する香港の福祉用具事情
カンタンの高齢化率の高さを踏まえ、福祉用具の需要が高まっている。香港では、高齢者の増加に伴って、福祉用具の需要が高まっている...

「車いすを自操したい」の実現めざして
高齢者の自立生活を支えるために、車いすの改良や新技術の開発が進められている。車いすを自操したいという高齢者の要望に応えるため、福祉用具メーカーは、車いすの改良や新技術の開発を進めている...

1177事業所の協力で 特殊寝台の有効性調査
パラマウントヘルシケアが、特殊寝台の有効性を調査した。調査の結果、特殊寝台は、高齢者の寝違えや腰痛の予防に効果的であると判明した...

福祉用具サービス導入率向上と社員育成の取り組み
福祉用具サービスの導入率を向上させ、社員の育成に取り組んでいる。福祉用具サービスの導入率を向上させるためには、社員の育成が重要である...

特別講演 兵衛興立大学大学院 簡井孝子氏 退院前カンファで用具提案を
看察医の協力を得て、退院前カンファで用具提案を行う。退院前カンファとは、退院前に行われる患者さんや家族、介護者、医療者などが参加する会議で、退院後の生活や介護の課題を話し合い、必要な福祉用具を提案する...

高齡化する香港の福祉用具事情
カンタンの高齢化率の高さを踏まえ、福祉用具の需要が高まっている。香港では、高齢者の増加に伴って、福祉用具の需要が高まっている...

「車いすを自操したい」の実現めざして
高齢者の自立生活を支えるために、車いすの改良や新技術の開発が進められている。車いすを自操したいという高齢者の要望に応えるため、福祉用具メーカーは、車いすの改良や新技術の開発を進めている...

1177事業所の協力で 特殊寝台の有効性調査
パラマウントヘルシケアが、特殊寝台の有効性を調査した。調査の結果、特殊寝台は、高齢者の寝違えや腰痛の予防に効果的であると判明した...

福祉用具サービス導入率向上と社員育成の取り組み
福祉用具サービスの導入率を向上させ、社員の育成に取り組んでいる。福祉用具サービスの導入率を向上させるためには、社員の育成が重要である...

特別講演 兵衛興立大学大学院 簡井孝子氏 退院前カンファで用具提案を
看察医の協力を得て、退院前カンファで用具提案を行う。退院前カンファとは、退院前に行われる患者さんや家族、介護者、医療者などが参加する会議で、退院後の生活や介護の課題を話し合い、必要な福祉用具を提案する...

高齡化する香港の福祉用具事情
カンタンの高齢化率の高さを踏まえ、福祉用具の需要が高まっている。香港では、高齢者の増加に伴って、福祉用具の需要が高まっている...

「車いすを自操したい」の実現めざして
高齢者の自立生活を支えるために、車いすの改良や新技術の開発が進められている。車いすを自操したいという高齢者の要望に応えるため、福祉用具メーカーは、車いすの改良や新技術の開発を進めている...

1177事業所の協力で 特殊寝台の有効性調査
パラマウントヘルシケアが、特殊寝台の有効性を調査した。調査の結果、特殊寝台は、高齢者の寝違えや腰痛の予防に効果的であると判明した...

福祉用具サービス導入率向上と社員育成の取り組み
福祉用具サービスの導入率を向上させ、社員の育成に取り組んでいる。福祉用具サービスの導入率を向上させるためには、社員の育成が重要である...

特別講演 兵衛興立大学大学院 簡井孝子氏 退院前カンファで用具提案を
看察医の協力を得て、退院前カンファで用具提案を行う。退院前カンファとは、退院前に行われる患者さんや家族、介護者、医療者などが参加する会議で、退院後の生活や介護の課題を話し合い、必要な福祉用具を提案する...

高齡化する香港の福祉用具事情
カンタンの高齢化率の高さを踏まえ、福祉用具の需要が高まっている。香港では、高齢者の増加に伴って、福祉用具の需要が高まっている...

「車いすを自操したい」の実現めざして
高齢者の自立生活を支えるために、車いすの改良や新技術の開発が進められている。車いすを自操したいという高齢者の要望に応えるため、福祉用具メーカーは、車いすの改良や新技術の開発を進めている...

1177事業所の協力で 特殊寝台の有効性調査
パラマウントヘルシケアが、特殊寝台の有効性を調査した。調査の結果、特殊寝台は、高齢者の寝違えや腰痛の予防に効果的であると判明した...

福祉用具サービス導入率向上と社員育成の取り組み
福祉用具サービスの導入率を向上させ、社員の育成に取り組んでいる。福祉用具サービスの導入率を向上させるためには、社員の育成が重要である...

特別講演 兵衛興立大学大学院 簡井孝子氏 退院前カンファで用具提案を
看察医の協力を得て、退院前カンファで用具提案を行う。退院前カンファとは、退院前に行われる患者さんや家族、介護者、医療者などが参加する会議で、退院後の生活や介護の課題を話し合い、必要な福祉用具を提案する...

高齡化する香港の福祉用具事情
カンタンの高齢化率の高さを踏まえ、福祉用具の需要が高まっている。香港では、高齢者の増加に伴って、福祉用具の需要が高まっている...

「車いすを自操したい」の実現めざして
高齢者の自立生活を支えるために、車いすの改良や新技術の開発が進められている。車いすを自操したいという高齢者の要望に応えるため、福祉用具メーカーは、車いすの改良や新技術の開発を進めている...

1177事業所の協力で 特殊寝台の有効性調査
パラマウントヘルシケアが、特殊寝台の有効性を調査した。調査の結果、特殊寝台は、高齢者の寝違えや腰痛の予防に効果的であると判明した...

福祉用具サービス導入率向上と社員育成の取り組み
福祉用具サービスの導入率を向上させ、社員の育成に取り組んでいる。福祉用具サービスの導入率を向上させるためには、社員の育成が重要である...

特別講演 兵衛興立大学大学院 簡井孝子氏 退院前カンファで用具提案を
看察医の協力を得て、退院前カンファで用具提案を行う。退院前カンファとは、退院前に行われる患者さんや家族、介護者、医療者などが参加する会議で、退院後の生活や介護の課題を話し合い、必要な福祉用具を提案する...

高齡化する香港の福祉用具事情
カンタンの高齢化率の高さを踏まえ、福祉用具の需要が高まっている。香港では、高齢者の増加に伴って、福祉用具の需要が高まっている...

「車いすを自操したい」の実現めざして
高齢者の自立生活を支えるために、車いすの改良や新技術の開発が進められている。車いすを自操したいという高齢者の要望に応えるため、福祉用具メーカーは、車いすの改良や新技術の開発を進めている...

1177事業所の協力で 特殊寝台の有効性調査
パラマウントヘルシケアが、特殊寝台の有効性を調査した。調査の結果、特殊寝台は、高齢者の寝違えや腰痛の予防に効果的であると判明した...

福祉用具サービス導入率向上と社員育成の取り組み
福祉用具サービスの導入率を向上させ、社員の育成に取り組んでいる。福祉用具サービスの導入率を向上させるためには、社員の育成が重要である...

Table with 4 columns: 発表者(発表者), 所属, 課題(課題), 内容(内容). It contains 12 abstracts related to welfare equipment research and development.

特集●これからの福祉・介護に向けて—わたしたちの思い

福祉用具専門相談員研究大会に参加して 感じたこと、そして今後に期待すること

お茶の水ケアサービス学院 神 智淳

令和6年6月19日に第5回福祉用具専門相談員研究大会が大阪で開催されました。大阪での開催は初めてで、会場に集まった方が406人（前年より46名増）、ZOOMによるオンライン参加者が912人と盛大な大会となりました。

私も、いろいろな方の発表を聞ける、大変貴重な機会になりました。

研究大会概要

○特別講演

兵庫県立大学大学院社会科学部教授の筒井孝子先生の特別講演は、「福祉用具の利用支援、評価システムの構築」のテーマで、介護事故防止に関する日本の施策の現状と課題、介護事故に関する分析とデータベースの作成方法、データベースの有用性と実用化までの課題について話されました。

福祉用具専門相談員が多職種と看護に関する情報を共有するには「重症度、医療・看護必要度」などの評価表を用いることが有用であることや、属人的である「匠の技術」を「型化」することの重要性を説かれました。特に、介護事故をデータ化し、そのデータは国がまとめるのではなく、地域で蓄積及び共有したほうが、タイムリーに情報を活かせるとの視点はとても斬新でした。これから、利用者に関わる様々な情報を取り扱っていかねばならない業界で、私自身としても、どのように情報を整理し分析していかねばならないかを改めて考えさせられる時間でした。

○口述発表

「地域・多職種連携・事業所の取組」、「福祉用具安全利用に向けた取組」、「経験3年未満相談員の福祉用具導入事例」、「科学的根拠に基づく未来に向けた福祉用具の取組」、「効果的な福祉用具の利用促進・福祉用具メーカーとの連携・協働」、「地域・多職種連携・事業所の取組」の6つのテーマに沿って3つの会場で発表が進められました。

全部の発表を聞くことはできませんでしたが、私が聞いたなかで印象に残った発表について、個人的視点も含め記述します。

「経験3年未満相談員の福祉用具導入事例」の会場での、「外スロープを用いた外出支援」においては、簡易スロープ（持ち運びができるスロープ）での外出はスロープを設置したり片づけたりするなどの介護負担が大きいいため、住宅改修によるスロープの工事を行った事例でした。経験年数が3年未満と短いため、事例発表にとどまりましたが、方向性はとても良かったです。今後は、簡易スロープの時と住宅改修後の外出頻度や家族の介護負担感（例えばZaritの介護負担尺度）を比較するなどすると、量的研究として福祉用具や住宅改修の外出支援の効果のエビデンスとなりうる研究になると思います（なお、量的研究のみが素晴らしい訳ではなく、質的研究もとても重要であることを付け加えておきます）。

「科学的根拠に基づく未来に向けた福祉用具の取組」の会場での、「要支援認定高齢者への電動車いす導入による自立支援・QOL向上・



写真1 介護ロボットの定着に関する発表

「重度化抑制に繋がった取り組み」において、電動車いすの導入前と導入後において、GDS15（老年期うつ病評価尺度）にて前後比較をしていました。外出などによる社会参加のサポートはうつ病の発生抑制に影響を与えることが知られています。今回は1事例でしたが、対象者数を増やすことで、研究結果の信頼性が増すと考えられます。さらに、QOLの代表的なスケールとして、PGCモラルスケールやSF36などを使うのも良いかもしれません。なにより、既にエビデンスの確立されたスケールを使い、統計処理を通して発表される日がそう遠くないことを感じさせる発表でした。

「効果的な福祉用具の利用促進・福祉用具メーカーとの連携・協働」の会場での、「介護ロボット導入から定着において高齢者施設が福祉用具専門相談員に求めること」において、介護ロボットを高齢者施設に導入するプロセスについて、導入前から定着に至るまで業務や職員のニーズがどう変化したのかをアンケート調査を通して把握するとともに、福祉用具専門相談員が導入前から定着までのプロセスにおいてどのような支援が必要であるかが発表されました（写真1）。ここ最近、移乗リフトや移乗ボード

などを導入する施設が多くありますが、ある一定の期間が経過すると、導入された福祉用具が使用されなくなるケースが多々あるのが、私は気になっていました。その原因として、費用等の影響で専門家の支援に限界があることや現場のリーダー層等の現場への関りが手薄になってしまうことが考えられます。福祉用具専門相談員が継続的に関わることであれば、その原因を解決するための極めて重要な役割を担えるかもしれません。特に、令和6年度の制度改正において、生産性の向上が求められるなかで、介護ロボットの活用は不可欠です。しかし、ただ介護ロボットを導入すればよいというものではなく、介護ロボットを使いこなすためのオペレーション（運用）を含むソフト面での支援はさらに重要です。オペレーションを含めたソフト面からのアプローチは長期的なサポートが必要であり、それを担えるのが全国津々浦々で活動する福祉用具専門相談員ではないかと気づかされる発表でした。余談ですが、私も令和6年度より、ある県の介護現場革新会議（介護現場の生産性向上の推進を図る会議）の委員として関わりますが、福祉用具専門相談員の重要な役割が増えることを感じさせた発表でした。

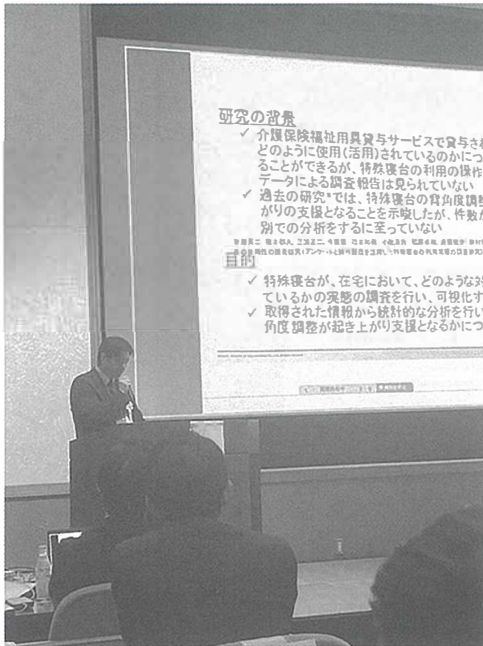


写真2 特殊寝台の有用性の発表

また、同じ会場での「要介護高齢者に対する特殊寝台の有用性の調査研究」において、特殊寝台の操作履歴と離在床のデータを「眠りスキャン」を通して取得し、特殊寝台の使用状況や効果、課題の有無について統計的手法を用いて分析していました(写真2)。「寝返り」で78%、「起き上がり」で89%、「立ち上がり」で88%が特殊寝台の効果を感じているとの発表でした。317件のデータを介護度別、疾患別にも分析しており、完成度の高い研究発表でした。

統計処理及び分析において、他の福祉用具専門相談員も参考にすると良いかもしれません。

○シンポジウム

シンポジウムでは、各発表会場を取り仕切った座長が担当する口述発表を総括しました(写真3)。発表会場が3か所、テーマが6つもあるため、全部に参加することは物理的に不可能で、このシンポジウムでの総括は参加者にはありがたいものでした。

今後の研究大会に期待すること

研究大会の参加者は、他の発表者から新しい気づきを得たり、学んだりする貴重な機会と

なります。また、発表者は、研究の立案から発表に至るプロセスを通して、自分の取り組みを見つめなおし、理論的な思考のもと、その取り組み(活動)が及ぼす影響(成果)を客観的な根拠に基づいて分析し伝えることとなります。発表者にとって、研究のプロセスを通して得る知見は専門性を高める上でもとても重要です。そして、研究者同士の関係性を深めたりする目的もあります。もしかすると、将来的に共同して研究することになるかもしれません。一方、今回参加してみて感じたのは、参加者からの質問が思ったより少なかったことです。「質問」をするには、質問者にはそれなりの勉強が必要となってきます。また、発表者にも「気づき」を与えます。研究大会を通して、発表者及び参加者が相互に刺激しあえることは、専門性を高めるうえでとても重要です。質問が飛び交う研究大会になることを期待しています。

研究大会に参加して、 自分の今後について考える

福祉用具専門相談員の皆様が忙しいなか、貴重な時間を割いて、研究を発表されたことは何より素晴らしいことだと感じます。おそらく、今後、研究の質を高めていく過程で、各研究における調査の対象者(利用者)数を増やしていくことになると思います。調査対象者数が増えれば、統計手法を用いて、エビデンスを高めることができます。なお、研究の目的に沿った統計手法を活用することは、とても高度な知識が求められます。一般的に統計手法等は大学院でないと学べないのが現状であり、多忙を極める福祉用具専門相談員にとって、大学院に行くのは簡単なことではありません。大学院に行かなくても統計を学べる環境は、研究の質を高めるうえで肝となり、とても大切です。

私の置かれた環境を踏まえ、今後何ができるのかなと考えました。大学院に行かずとも、統計手法を学べる環境づくりが大切だと感じ、eラーニングで統計を学べるコンテンツ作りを取



写真3 シンポジウムの様子

り掛かり始めました。皆様の研究の後方支援が「少しでもできたらよいな」と思っています。

最後に

多くの研究の発表を聞き、福祉用具専門相談員が福祉用具の有用性等を研究し、自らの専門性を確立しようとしたことを実感しました。発表に際して大変な苦勞をされた発表者及び研究の協力者、そして発表大会に参加された方々に心より敬意を表したいと思います。また、一般社団法人全国福祉用具専門相談員協会、一般社団法人日本福祉用具供給協会、研究大会の実行委員の皆様のご尽力により、このような素晴らしい機会が提供されたのだと思います。

皆様の専門性の更なる確立とその専門性を礎としたご発展を心から願っております。

月刊福祉介護テクノプラスの休刊についての思い

本誌の編集委員は委員長の市川洸先生をはじめ、大変著名な先生ばかりでしたので、編集委員のお話をいただいたときに、正直務まるのか不安でいっぱいでした。それにもかかわらず皆

様に暖かく迎えていただき、なんとか今まで続けることができました。そして、日本の保健・医療・福祉の業界をリードする様々な先生にご執筆いただいたこと、感謝の言葉しか見当たりません。今までご執筆いただいた貴重な原稿は切れ味が鋭いだけでなく、普遍的な内容でもあるとともに諸先生方々の知見が詰まっております。今後も色あせることはないはずです。それらの貴重な原稿を、いつまでも閲覧できる環境がつけられることを願っております。日本工業出版株式会社の山口康様にはいつも無理なお願いばかりしていましたが、それにもかかわらず快くお受けいただき、感謝申し上げます。

そして、何よりも、長年にわたり本誌をご愛読いただきました皆様、スポンサーの企業の皆様のお力添えがあったからこそ、本誌の発行ができました。本当にありがとうございました。皆様とまたどこかでお会いできることを楽しみにして、本稿の結びとさせていただきます。

●執筆者
神 智淳
お茶の水ケアサービス学院
学院長
月刊「福祉介護テクノプラス」編集委員

第5回福祉用具専門相談員研究大会 大会組織

大会長 記虎 孝年 (公益社団法人関西シルバーサービス協会理事長)

副大会長 小野木 孝二 (一般社団法人日本福祉用具供給協会理事長)

大会顧問 幸田 正孝 (元 厚生省事務次官)

山内 繁 (NPO 支援技術開発機構理事長)

第5回福祉用具専門相談員研究大会 実行委員会

委員長 鈴木 みどり (株式会社トップコーポレーション)

倫理委員会委員長 白澤 政和 (国際医療福祉大学大学院)

査読委員会委員長 東島 弘子 (国際医療福祉大学大学院)

委員 高木 克彦 (川村義肢株式会社)

浦野 徳也 (株式会社ポート・リハビリサービス)

淵上 敬史 (株式会社ウイズ)

橘田 直樹 (株式会社ヤマシタ)

平田 拓 (フランスベッド株式会社)

富澤 泰輔 (株式会社トーカイ)

池本 和樹 (株式会社トーカイ)

福島 伴彦 (株式会社カクイックスウィング)

川口 隆 (全国福祉用具専門相談員協会)

中沢 淳 (全国福祉用具専門相談員協会)

柳田 磨利子 (全国福祉用具専門相談員協会)

伊藤 広成 (日本福祉用具供給協会)

淡路 陽子 (日本福祉用具供給協会)

運営協力 小林 毅 (日本医療科学大学)

顧問 酒井 博人 (総合メディカル株式会社)

次回告知

第6回 福祉用具専門相談員研究大会

介護人材不足を補う福祉用具サービスの役割
～福祉用具の能力を最大限引き出す相談員のスキルアップ～

2025年6月19日(木)開催

大会長

小野木 孝二

一般社団法人日本福祉用具供給協会 理事長



会場

浅草橋ヒューリックホール

東京都台東区浅草橋 1-22-16

<https://hulic-hall.com>